

# 生理の悩み減らしたい

国際女性デー  
2025

生理（月経）への理解を深める

イベント「大学生によるみんなの保健室」が8日、広島市中区のエソール広島であった。叡啓大（中区）の学生たちが企画。パネル展示などを通じ、生理の基礎知識や



さまざまな生理用品を来場者に紹介する山崎さん（右端）

## 中区で大学生たち催し パネルや用品紹介

生理用品の最新事情を伝えた。

同大ソーシャルシステムデザイン学部3年の山崎祥子さん（21）が「生理の悩みを1人で抱える人を減らしたい」と発案。看護学生や看護師の協力で約3カ月かけて準備した。パネルでは子宮の働きを説明。ストレッツチなど、生理痛や月経前症候群（PMS）の症状を軽くするとされる方法も紹介した。

会場では布ナプキンや月経カップなど、多様化した生理用品も紹介。看護師による相談コーナーも設けた。山崎さんは「誰にとっても身近な課題。今後も気軽に話題にできる場をつくりたい」と話した。

（木原由維）